

2021年3月1日

親鴨会メッセージ：「言葉」の力・「表現」の罨

案内の通り、今年の親鴨会年次総会はオンライン会議で開催します。出欠の返信や近況をご連絡下さい。

時節柄、自宅でテレビのニュースを聴いていることが多いのですが、取り上げられているリーダー達が語る「言葉」や「表現」に違和感を覚えることが多くあります。本来「言葉」はお互いの共感を確認するための不可欠な道具ですが、一方、使い方によっては相手を傷つけることとなります。この文章を書きながらも、自分が伝えたいことが判り易く表現されているかを考えて、手直しが可能です。しかし、会話やスピーチはリアルタイムで「言葉」を投げ合ってコミュニケーションすることで「素の自分」がストレートに表現されるという違いがあります。加えて、公的な発言であればあるほど、あらゆるメディアで瞬時に配信され、多様な視点に晒されることとなります。それだけに問題が起こると「そういう意味で言ったのではない」といった言訳が多くなるのでしょうか。

在職中、テクニカル・サポートのグローバル会議でスピーチをしなければならないことになったとき、各国の文化や宗教的な視点をふまえた適切な英語表現でスピーチをする自信はありませんでした。やむなく、英文原稿を書いて会議の前日に数ヶ国の人に読んでもらいましたが、彼らの答えは「日本人らしい英語で良いのではないか」というものでした。「日本人らしい英語」という言葉には「？」と思いましたが、少なくとも異文化の人達にとって不快な英語表現ではないことが確認出来たことで安心してスピーチをしたことを思い出します。IBMで文化の多様性を知り、それを許容し、協力し合ったことは貴重な経験でした。「違い」を否定することなく、「違い」が生まれた理由を知りたいという好奇心を持ち続けたいものです。

昨日、25年前に一緒に仕事をしたアメリカ人の仲間から手紙と家族の写真が届きました。アメリカでの近況とともに私たち家族を気遣う内容です。今日は、彼に「日本人らしい英語」を駆使して返事を書こうと思います。

親鴨会会長
内池正名